

BE WILD

2009.01 活動報告
日本ボーイスカウト阿見第1団
<http://www.bs-ami.net>



● 団スキー訓練の朝（草津高原 YH にて）

🌿 ボーイスカウトとユニフォーム（制服）

一目でボーイスカウトとわかるユニフォーム、どうしてスカウトはユニフォームを着るのでしょうか。それは、次の意味があるからです。

- スカウトであるというあかし。
 - 世界中のスカウトが、同じ「ちかい」をたて「おきて」を守る兄弟として、仲間意識を体感するため。
 - 野外を主とした活動で、活発に活動できるようにするため。
 - ユニフォームを清潔に正しく着用すること、すなわち記章や標章を正しい位置につけ、身だしなみのよさや自尊心を養うこと。
 - 社会のスカウト運動に対する信頼を高めるため。
- です。また、スカウトのユニフォームは、どこの国であっても世界スカウト

記章🌿をつけます。これは、「ちかい」をたて、スカウト一人ひとりが世界のスカウト仲間に加わったこと、スカウトとしてお互いに「ちかい」と「おきて」を守って友情を深めることを示しています。そうです uniform、「uni」=ひとつの「form」=形・姿勢なのです。

自分が一員である地域社会、支えてくれている人々、自分の果たすべき役割、自分が常に努力して社会の役に立つ準備を着々と進めていること、積極的に建設的に役割を果たそうとするスカウトの精神がそこに表れています。

スカウトや指導者がスマートにユニフォームを着こなし、快活に活動する姿や秩序ある行動や動作により、一般の人々からスカウト運動に信頼と好感が持たれるように、「友情」「自信」「信

頼」の象徴となるユニフォームに大いに誇りを持ち、正しく着用するようにしましょう。

なお、「ユニフォームを来ているときだけがスカウトではない」と言われるように、ユニフォームを着ているときと同じ気持ちが自然に身に付き、スカウトらしい行動をいつもとれるようになることを期待しています。



阿見第1団の1月のトピックス

● 団行事「スキー訓練」 草津国際スキー場

1月10日～12日の日程で、団行事である「スキー訓練」を実施しました。昨年までの3年間は、福島県沼尻スキー場で行って来ましたが、日程等で宿との調整がつかず、今回は草津国際スキー

場での実施になりました。日本で最初に出来たスキー場に、阿見1団は初参戦！初日は吹雪との戦い、2日目は多くのスキー客との戦い、3日目はフリー走行と、スカウトたちはスキーを満喫？

することができました。

また、夜のプログラムでは全員が大露天風呂に入り、さらにカブ隊は湯畑見学、BS隊は伝説復活の「雪中メドレーリレー」、VS隊の念願の雪中キャンプなどなど、今回のスキー訓練は、さらに充実した内容の訓練になりました。

BVS 隊の1月の活動

● みんなでがんばるぞ

エリア67で、ビーバースカウトたちは元気に走り回りました。

カニの二人三脚（背中合わせでの二人三脚）では、保護者の方におおいに活躍していただきました。お尻の決闘



（背中合わせでのタオルを取り合う）では、女の子の方が強く驚きました。その他、ジャンケン百足、新聞紙を巻いての競争で盛り上がり、最後は、キャンプ場の中での缶蹴りで、スカウト、リーダー、保護者みんなでもうに盛り上がりました。みんな、とても疲れましたが、充実した一日でした。

● おもちつき大会 !!

カブ隊と一緒に中央公民館でお餅つきをやりました。

みんな、とてもじょうずにつけており、リーダーや保護者の手を借りず、スカウト達だけでおいしいおもちがつ

● ビーバースカウト隊

幼稚園年長～小2：8月



けました。なかには、職人の様なスカウトもいて、とても驚きました。その後、きなこ、あんこ、ダイコンおろし、お雑煮でお餅をたくさんいただきました。とてもおいしく、おなかがいっぱいになりました。とても満足しました。

CS 隊の1月の活動

● スキー訓練

平成21年最初の活動は、スキー訓練からスタートしました。今回は福島の沼尻から群馬の草津に移り、いつもとは少し雰囲気の違いの違うスキー訓練になりました。

スキー訓練初日、昼食のカブ弁を食べて、元気よくグレンデに飛び出したまでは良かったんですが、物凄い風で地吹雪状態になり、早々にスキー訓練を切り上げ、暖かいユースホテルに戻りました。一息ついて、お風呂&夕



食で元気の取り戻したカブ隊は、草津温泉名物の湯畑見学に出かけました。きれいにライト・アップされた湯畑に感動して、たまにはこういう活動も悪くないなと、思ったのは隊長の私一人だけではなかったのでは・・・。

スキー訓練2日目、しんと冷え込む朝の7時に、半袖の制服・制帽で行う阿見第1団の朝礼は、まさに訓練、耐寒訓練とはこういう事かと、初めて参加したスカウトには、強烈なインパクトのある、忘れられない貴重な体験になったと思います。天候は快晴、絶好のスキー日和となり初心者クラスから上級者クラスまで、粉雪を巻き上げて、スイスイと気持ちよく、シュプールをえがいて、スキーを楽しみました。

夕食後の夜の活動は、特技を披露する活動で、ここで意外な？スカウトが強烈なものまねを披露し、一躍みんなの注目をあびました。

最終日、前日同様天候に恵まれ、半

● カブスカウト隊

小2：9月～小5：8月



日でしたが、時間の許す限り自分の技量にあったスキーを楽しんで、全員怪我もなく、スキー訓練を無事に終了し、帰路につき、予定より早い5時10分には、阿見町役場に到着し、迎えに来てくれた、保護者の方に今回のスキー訓練で一回り遅くなった、スカウトを送り届けました。

2泊3日の短い期間の活動でしたが、スキーを通じて、寝食を共にし、スカウトとリーダーが、一つの目的に一緒になって取り組み、充実した活動だったと思います。

BS 隊の 1 月の活動

●ボーイスカウト隊

小5：9月～中3：8月

● スキー訓練 1月10-12日

今年は、初めて草津国際スキー場に行ってきました。おそらく、今までのスキー訓練で一番大きなスキー場だったと思います。雪も豊富だし、温泉街もあったりで、スキーだけでなく、夜の活動も満喫して来れました。特に新雪の上でのメドレーリレーは、見ても楽しい、やっても楽しい？プログラムでしたね。みんなは、今回何か思い出に残るような体験ができましたか？



の年です。前回のウォーターボーイズを超えるべく、今年は1月から準備を開始します。主なプロジェクトは3つ。スタンツ、ゲート、隊紹介です。他隊を「アッ！」と言わせるようなみんなの奇抜なアイデアを期待しています。

キャンポリーまであと7ヶ月ちょっと。結構時間があるようで、意外と短いものです。今のうちから各班でいろいろ打ち合わせをしていきましょう。

● スワロー班集会 1月25日

1月25日 スワロー班集会（写真なし）スワロー班は、春休みに列車で旅行に行きます。行き先は、古都鎌倉です。阿見1団では久しぶりの班旅行ですね。U班長、楽しい報告も待ってま～す。

● ハヤブサ班集会 2月1日

ハヤブサ班は、N班長が、ボウリングは外せないでしょう、ということで、ボウリング&キャンポリープロジェクトの打ち合わせを行いました。

ボウリングは100点超えれば、上々というちょっと物足りないスコアでの競い合いでしたが、みんなそれぞれに楽しんでいました。でもスコアよりもN班長がくじ引きで iPod-nano を引き当てたのが一番でしたね。

その後、ハヤブサの担当である隊紹介の仕方について、打ち合わせを行いました。いくつか案を出し合いましたが、まだ具体的な形はできていません。来月ぐらいまでには、具体的な構成を決めたいですね。



● 班長会議 1月24日

キャンポリープロジェクト始動！
今年は、4年に1度の県キャンポリー

CS 隊 つづき

● お正月の遊び 1月24日

1月の2回目の活動は、『餅つきと羽根つき』を行いました。当日は天気予報が大きく外れて、なんと雪の中での活動となり、会場となった中央公民館のホールでの餅つきとなりました。

スカウトたちは、初めての餅つきに最初はちょっと苦戦してはけれど、すぐにリズムよく餅がつけました。お昼にいろんな味付けをしたつきたてのおもちと、お雑煮風カブ鍋をお腹いっぱいいただきました。

その後降雪がはげしくなり、羽根つきは中止し解散となりました。キャンプ係さんありがとうございました。



VS 隊の 1 月の活動

●ベンチャースカウト隊

中3：9月～高3：8月

● 雪中キャンプ 11月2日

何故、雪の中でキャンプをするかって？ 蚊はいないし、暑くないし、料理はおいしいし、腐らないし。ここに温泉なんかがあったら、言うことなしですよ。・・・という状況が本当にあってしまいました。

阿見1団ベンチャー隊（シニア隊）は、伝統的にスキー訓練時には雪中キャンプを行っていました。しかし、ここウン十年、その機会に恵まれていなかったのですが、待望のスキー訓練&雪中キャンプが実現しました。

皆さん、「-20℃」はどんな世界か知っていますか。寝ていると鼻毛が凍るんです。「-15℃」の世界を知っていますか。バナナで釘が打てるんです。では、「-10℃」の世界は？ やかに水を入れてから睡眠しないと朝、コーヒーが飲めないのです。なぜって、ポリタンクの水はすべて凍ってしまうからです。で、今回はというと、何と-13℃。確かに水は凍りました。もちろん、雪中



キャンプです。宿泊はテント。つまり外壁は布一枚。しかし、この布一枚が大きいのです。風が防げるといっただけで、かなり違います。また、テントの中でお湯でも沸かして、湿気が発生しますと温かさは倍増です。実際、テントの中は外気よりも5℃ほど高いので-8℃（最低温度）。しかし、寒いものは寒い。いかに寒さを創意工夫で克服するか。そこが腕の見せどころ。かなりの強風の中のテント設営。かなり苦労はしましたが、室内はかなり快適。思っていたよりも快適な睡眠がとれました。

次は、ワカサギ釣り目的の雪中もいいですね。こうご期待。

団委員会報告

● 1月団委員会報告

阿見第1団では、毎月第4土曜日に団委員会を開催しています。会議の構成員は団委員・各隊隊長・副長で、様々な案件を協議し、団・隊の運営が円滑になるように協議・検討をしています。

今回の団委員会協議内容で、特に皆さんにお知らせしたいのは、エリア67の管理・運営についてです。

キャンプ時に夜のトイレで利用していました「ふれあいの森」のトイレが、先日不審火により全焼してしまい、夜用のトイレが近くにない状況になってしまいました。3月にBS隊でキャンプを予定しており、それに合わせてBSリーダーが中心になり、仮設トイレを作ることになりました。

また、エリア67の入口4か所に、簡易チェーンを抑止力の意味もあり、やはり3月のBS隊キャンプ時に、団委員が中心になり設置する予定です。

BS 隊 TOPIC

● 雪中メドレーリレー!?

ベンチャー隊が雪中キャンプを復活させるんならボーイ隊は・・・、そう、これがありました、そうです、伝説の「雪中メドレーリレー」です。おそらく過去30年は実施されていなかった言わば「封印」されたプログラムなのです。・・・なんて勿体ぶることはないのですが、YHの近くにあった雪の積もったテニスコートをプールに見立てて、それは実施されました。各班+BS指導者の計4チームがエントリー。最初はバタフライ、背泳ぎ、平泳ぎと続き最後は自由形でゴールを目指します。

「よ〜い、ドン!」の合図で一斉にスタート、勢いよく飛び出したのは・・・いや、全員飛び出せずにモタついていきます。そりゃそうでしょう。なんせ雪中ですから。そんな中、本間副長が素晴らしい背泳ぎ? ↓を披露しました。



●特集 カブスカウト隊の紹介



カブスカウト活動とは、ボーイスカウト運動の一貫した教育の中でギャング・エイジと呼ばれる児童中期(小学3年~5年)の少年を、対象とした異年齢の小グループによる教育活動です。カブスカウトは

- 小学2年9月から「うさぎ」の課程
- 小学3年9月から「しか」の課程
- 小学4年9月から「くま」の課程

の年代に合わせた3つ課程があります。この呼び名は金太郎の足柄山物語がその背景となっているからなのです。

カブスカウトの教育は、みんなで集まって行う集会プログラムと、その年代で身に付けてもらいたい社会性や一般常識が記されたカブブックへのチャレンジの2つがあります。カブスカウトは、それぞれの課程のカブブックの修得科目・選択科目に保護者や指導者とともに取り組み、競ってクリアしていきます。基本的には、このカブ年代における心身の発達に応じて、必ず身につけるべき良い特質を修得すること、すなわち「良き社会人」になるための基盤を形成することで、次の成長段階である、ボーイスカウト部門へと繋げて行きます。

また、スカウトには「やくそく」と「さだめ」があります。この言葉に「えっ!?!」と思われる方もいらっしゃるでしょうが、この「やくそく」は「さだめ」は、スカウトとしての自分自身の在り方・生き方を示しているものです。

【カブスカウトのやくそく】

ぼく(私)は、まじめにしっかりやります。

カブ隊のさだめを守ります。

【カブ隊のさだめ】

1. カブスカウトは、すなおであります。

2. カブスカウトは、自分のことは自分でします。

3. カブスカウトは、たがいに助け合います。

4. カブスカウトは、おさないものをいたわります。

5. カブスカウトは、すすんでよいことをします。

です。語尾が「ます」と現在進行形になっていることは、それをいつもいつも実行するという意志を表しています。

ただ、心も体も、まだ未発達なこの年代のスカウトには、個人ではなくカブ隊の「さだめ」として、みんなで守る、お互い注意しあう、直しあう、忠告を受け入れるというスタイルをとっています。これらを、スカウト自身が自然に行い、また体得できるように、継続的な参加を促し、好奇心を刺激する多彩なプログラムを提供しています。

阿見第1団カブ隊は、「楽しくなければ、スカウティングではない」をモットーとし、スカウトもリーダーもお互いのことを考えながら、楽しみ、協力し、成長する「わくわく・どきどき」の活動を企画・実施しています。

また、子供のより良い成長は、保護者の願いであり責任でもあります。カブスカウトの活動は、その保護者を支援するものです。そのため、この活動は指導者だけ行うのではなく、保護者の方の積極的な協力と参加を必要としています。今までも多くの保護者がデンリーダー、キャンプ係、団委員や指導者として関わってきました。その地域の輪があって、初めて「良き社会人」への教育につながるのだと思います。

スカウトと保護者が一緒になって活動し、家に帰ったらスカウトと一緒に今日の隊集会のこと、次の活動予定のことなどを、夕飯を食べながら、お風呂に入りながら、話題の1つに取り上げてもらえたら、こんなに嬉しいことはありません。

カブ隊は、肩肘はらず、自然体で、大人も子供も、楽しく、次の活動が待ち遠しいと思えるプログラムで、新鮮で感動する活動を提供していきます。